

中国の南シナ海への基地建設計画

漢和防務評論 20141003 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、南シナ海の係争中の珊瑚礁を埋め立て、強引に軍事基地を建設しようとしていますが、その青写真が露見しました。

漢和防務評論誌は、最近、中国船舶工業集团公司第9設計研究院工程有限公司(CSSC)が製作した施工図を入手しました。その施工図には、爆撃機及び戦闘機が離着陸できる2本の滑走路、大型艦船が停泊できる大型埠頭が描かれていました。

中国の官側のホームページには、当然ながら珊瑚礁の埋立工事に関する記事は掲載されていませんが、南シナ海の赤瓜礁(UNION REEFS)の最近の衛星写真を見ると、この施工図に酷似した工事が進捗しているとのこと。

KDR バンコク特電：

中国は、南シナ海の若干の島礁で大々的な土木工事を行い、またサッカー場17個分程の広さの土地を確保するため埋め立て工事を行っている。ちょうどこの時期に、中船(中国船舶工業集团公司)第9設計研究院工程有限公司(CSSC)は、“南海島礁技術備蓄研究課題“施工図なるものを提議した。この図を見ると、明らかに海空軍聯合基地の建設方式を示しており、言わば”不沈空母“のように見える。官側のホームページには、このような”不沈空母“を何時建設するか説明は無いが、設計全体が具体的で、施工の方向は、現在UNION REEFS(赤瓜礁)で進められている珊瑚礁の埋め立て工事に酷似している。図上では、島礁の西部に横断する形で滑走路がある。最も注意すべきことは、滑走路の西側に駐機中と見られるH-6長距離爆撃機が描かれていることだ。島礁の東部には、不明瞭だが風力発電施設と軍港の想像図のようなものが描かれている。軍港の外側には小型の防波堤が描かれ、2つの埠頭にはミサイル駆逐艦1艘と中小型の水上艦1艘が停泊できるようだ。また5000トン級の港区1つと50000トン級の港区が1つ描かれている。大中の燃料タンクが6個、そのほかヘリポートも描かれている。滑走路の長さは少なくとも2500Mはあるようだ。周知の通り、H-6爆撃機と戦闘機用の滑走路は建設基準が異なり、H-6の滑走路であれば、固いコンクリート舗装にしなければならない。

人工島の滑走路は2本描かれ、1本は大型爆撃機用、1本は戦闘機用滑走路であろう。図上には、エプロンに5個のスポットがあり、最大6機のH-6爆撃機が停留できるようだ。また2つの滑走路間に23個のスポットが描かれ、必要時戦

闘機を収容できるようだ。

施工図では、相当大型の人工島を建設するようであり、特に爆撃機が離着陸できる基準で建設されるのは驚きである。このことは、中国空軍が最終的に赤瓜礁のような人工島を利用し H-6 を離着陸させようとしていることを意味する。

H-6 の航続距離は 6000 KM であり、爆弾搭載量は 9 トン、巡航ミサイルの作戦半径は 1800 KM、H-6 の最大速度は毎時 1050 KM、巡航速度 M0.75 である。最新型は H-6K 型で、射程 2000 KM の巡航ミサイルを 6 発搭載する。海軍版の H-6 は、YJ-83、YJ-12 等射程 200 KM 以上の空対艦ミサイルを搭載する。H-6 の作戦半径を利用すれば、マラッカ海峡を封鎖することが出来る。さらに一旦有事となればオーストラリアから北上する米軍を攻撃することが出来る。

南シナ海に H-6 爆撃機の基地を建設する意図は、長距離巡航ミサイルを使用し、戦時にオーストラリア本土の米軍基地を攻撃するためであろうか？注目する必要がある。赤瓜礁は、オーストラリア北部から 3200 KM の距離にあり、H-6 の作戦半径 1800 KM と搭載された巡航ミサイルの射程 2000 KM を加えれば、オーストラリア北部の米軍基地を戦略爆撃することが出来る。これは米軍のリバランス政策に対する重要な牽制となる。

島の上に描かれた 6 個の閉鎖式格納庫は、明らかに 1 個編隊の高性能戦闘機用である。戦時には H-6 の護衛任務に就く。別の施工図には、2 つの淡水備蓄庫、万トン級の深水埠頭、長さ 3500 M の滑走路がある。

現在、中国が南シナ海に幾つの”不沈空母”を建設するつもりなのかは不明である。もう一つの”不沈空母”建設に適した島礁は、MISCHIEF REEF である。

中国は、美濟礁と呼んでいる。中国は、すでに礁内に 5 個の簡易型角楼（注：城壁の隅に設けられる櫓）と長さ 43 M 幅 29 M のコンクリート製建築群を建設している。島礁全体の東西の長さは、8900 M、幅 6000 M である。ここはフィリピン南部から、距離僅か 244 KM しかない。ブルネイからは 548 KM である。

MISCHIEF REEF だろうと UNION REEFS であろうと、”不沈空母”が建設されれば、ベトナム南部、インドネシア、マレーシア、及びシンガポール全土が H-6 の巡航ミサイルの攻撃範囲内に入る。特にシンガポールには、米軍の沿岸快速反応パトロール艦が駐屯している。

大型基地が建設されれば、特に軍用飛行場であれば、必然的に長距離対空、対海レーダーが、或いは各種信号傍受施設が建設される。中船第 9 設計研究院有限公司（CSSC）が設計した”南海島礁技術備蓄研究課題”施工図の中に、1 個の飛行場監視塔があった。レーダーや防空陣地は発見できなかった。当然これは 1 個の技術備蓄研究図に過ぎないので、一旦軍用基地が建設されれば、必ず防空施設が追加建設されるはずだ。

描かれた 50000 トン級港区は、”遼寧号”空母を除けば、20000 トン級の 071

型揚陸艦を含め、すべての中国海軍大型水上艦を停泊させることができる。
しかし”不沈空母”とは言うものの、島礁上に造られた海空基地は難攻不落ではない。上述の 2 つの島礁は、ベトナムホーチミン市から約 850 KM の距離にあり、ベトナム軍 SU-30MK2 型多用途戦闘機の作戦半径内にある。一旦有事となれば、ベトナム軍、米軍は、最初にこれらの島礁基地を攻撃する可能性が高い。

最後に、もしこの種の総合軍事基地が本当に建設開始されたならば、必ず周辺国の反発を招くであろう。

以上